

第2回 令和6年度地方創生ストリートミーティング ～鳥取市出身社会人編～ ご意見と対応方針

No	ご意見・ご提言	対応方針	担当課
1	オンラインで仕事ができるとはいっても、東京や大阪には行かないといけないこともある。新幹線や高速道路などのアクセスの良さは魅力の一つ。	<p>大阪市から下関市を結ぶ山陰新幹線は昭和48年に基本計画が閣議決定されてから半世紀以上進展が無い状況です。本市は平成25年に設立され、2府5県にわたる52の自治体で構成される「山陰縦貫・超高速鉄道整備推進市町村会議」の会長市として山陰地方に新幹線を誘致すべく、国土交通省等関係機関への要望活動や決起大会の開催など、山陰新幹線の早期実現に向けた各種活動を実施しており、引続き活動を推進してまいります。</p> <p>本市が関係する鳥取道、山陰道、鳥取豊岡宮津自動車道では、それぞれ沿線自治体等から構成される期成会を設立しています。本市はその会長市として国土交通省等関係機関に対し、未整備区間の新規事業化や4車線化等の要望活動を実施しており、引続き活動を推進してまいります。</p>	都市企画課
2	大学進学を機に鳥取市を出てしまうので、高校生が出たくないようなまちづくり、若い世代が魅力を感じるまちづくりを考えても良い。高校生は移動手段が少ないため、そのあたりの検討も必要。	<p>就職や大学進学を機に若い世代が市外へ転出してしまいう現状は、本市が抱える重要な課題の一つです。</p> <p>若い世代の方々に本市の魅力を知っていただくため、中・高生を対象に職場体験や企業説明会を開催し、市内就職への関心を高める機会を提供しています。また、高校生による地元の魅力を広くSNSで発信していただく取り組みを行っています。さらに、鳥取駅周辺の再整備に向けた取り組みの中で、若い世代が魅力を感じる施設の整備についても検討を進めています。</p> <p>公共交通の利便性向上に向けては、従来のバスやタクシーに加え、共助交通や実証実験中の予約型モビリティ乗り合い交通の導入を進めるほか、鉄道やバスのICカード化を推進し、若い世代にも利用しやすい交通環境の構築に取り組んでいます。</p> <p>これらの取り組みを通じて、若い世代が魅力を感じ、将来にわたって住み続けたいと思えるまちづくりを目指しています</p>	地方創生推進室 交通政策課 まちなか未来創造課

3	鳥取は大学数、学部や学べることも限られる。もう少し幅が広がれば、地元大学に進学し、地元就職する流れが増えると思う。	本市は都市部と比較し、大学数・学部数とも少ない状況にあります。また、少子化の進行により、今後、学生数の減少が見込まれ、全国的に将来を見据えた大学経営が求められています。 本市としましては、ご意見の趣旨を踏まえ、地元大学や関係機関と連携をさらに深め、地元大学の教育・研究への協力や、高校生に地元の大学や企業の魅力を知ってもらう取組を行うなど、高校生の地元大学への進学や県外学生のUターン、地元企業への就職の促進に向けて取り組んでいきます。	政策企画課
4	仕事がしやすいまちづくりが大事。鳥取市は子育てしやすい環境も整っていると思うが、鳥取市でやりたい仕事がないと住めない。	鳥取市で働きたいと思っていただけるような魅力的な雇用の場の創出に向けて、今まで以上に企業誘致に力を入れていくとともに、地元企業の新事業展開や起業創業支援などにも積極的に取り組んでまいります。また、高齢者や女性、障害者など、多様な労働力の活躍の場の創出にも力を入れてまいります。	経済・雇用戦略課 企業立地・支援課
5	メーカーの開発職や工場は地方にある場合もあるが、鳥取には希望する職種がなかったため選択肢から外れてしまった。		
6	滋賀県竜王町ではダイハツと連携して大きなインパクトのある子育て施策を行っている。鳥取市もここに力を入れている、他ではできないという大きなインパクトが大事。今の時代は情報が一番であり、良い取り組みをしても自分から調べないと知りようがないならば厳しい。	子育てアプリを活用した妊娠、出産、子育てに関する情報の提供を行っています。アプリでは、「ファーストバースデー事業」や「健診案内」のブッシュ案内を行い情報を発信しており、今後も健診等も含め、あらゆる機会を通して情報発信をしてまいります。	こども家庭センター
7	都市部が便利なため、都市部から地方に戻るのは大きな決断になる。そこを後押しするようなサポートや魅力があれば鳥取を選択する方も増えると思う。	引き続き、ワンストップでの相談対応を継続するとともに移住者の動向や感想なども参考に各種補助金、交通費補助、空き家等の移住に向けた支援を充実させていきます。	地域振興課